

## 認知症カフェとその源流\*

### — 認知症カフェとふれあい・いきいきサロンの関係性から —

岩永 耕\*\*

#### The Original Form of the Dementia Cafe : Relationship between Dementia Cafe and Fureai-ikiiki Salons

Ko IWANAGA\*\*

#### 1. 認知症カフェの増加と多様化

2014年に全国で300ほどだった認知症カフェは、厚労省が推進したこともあって年々増加し、2019年には7,988か所にも増加した(厚労省2021)。そのように増加する中で認知症カフェは多様化してきている。コスガ(2020)によれば、2016年の全国調査では、同カフェの最も多いパターンは月1開催だったが、常設型や月数回開催型もある一方、頻度が少ないところでは2か月に1回しか開催していない。プログラムも、歌やゲームなどのレクリエーション、体操などの健康づくりをするところもあれば、特に決めていないところもあり、規模をみても100人以上が参加するカフェもあれば10人以下のところもある。

#### 2. 認知症カフェの源流

コスガ(2020)は「認知症カフェガイドブック」で、日本で認知症カフェが一举に広まったのは、「イメージの源流」があったためだ、と述べている。その源流とは、「家族会」、「ミニデイ(ふれあい・いきいきサロン。以下「サロン」と略する。))」、「コミュニティカフェ」の3つである。

ここでいう「家族会」とは、1980年設立の現・公益社団法人「認知症の人と家族の会」や全国で認知症の人の家族が進めている活動を指している(コスガ2020)。

また「ミニデイ」とは、健康づくりや生きがいづくりを目的に公民館などで行われてきた地域活動で、「サロン」を指すこともある。最近では、介護予防・生活支援サービス事業のうち、住民主体のサービスである「通所型サービスB」を指すこともあり、統一感が感じられない。

そして3つ目の「コミュニティカフェ」とは、飲食店のように入りやすく、開放的にコミュニケーションを図る店舗型の活動を指している。介護予

防・日常生活支援総合事業のガイドラインでは、総合事業の通所型サービスB(住民主体による支援)に位置付けられているが、この「コミュニティカフェ」の定義も曖昧だといわざるをえない。例えば倉持(2014)は「飲食を共にすることを基本に、誰もがいつでも気軽に立ち寄り、自由に過ごすことができる場所」と定義している。しかし一方で坂倉(2020)は、「人と人とがつながることを大事にする、行くとほっとできる場所づくり」と定義しており、倉持の定義よりもかなり抽象的な印象を受ける。

この「コミュニティカフェ」の「カフェ」は、いわゆる喫茶店をさしてはならず「人が気軽に集まってお茶やコーヒーを飲む場所」という意味から派生してきた用語である。その「カフェ」と同じように使われる用語の一つに「サロン」というワードがある。地域福祉や高齢者福祉の分野で「サロン」といえば、この「(ふれあい・いきいき)サロン」という活動を指している。この「サロン」こそ、認知症カフェの源流となった「健康づくりや生きがいづくりを目的に、公民館などで行われてきた地域活動である」という仮説を、ここで立てておきたい。その上で、本稿ではこれらの関係性を整理した上で、「サロン」の現状を紹介し、今後、「認知症カフェ」がますます発展していくための知見を述べてみたい。

#### 3. ふれあいいきいきサロンの実像

全国社会福祉協議会(2000)によれば、サロンは、「地域を拠点に住民である当事者とボランティアが協働で企画し、内容を決め、共に運営していく楽しい仲間づくりの活動」と定義されている。このサロンは各市町村の社会福祉協議会(以下、「社協」)が推進・支援をしたことで、全国で計67,903箇所にも増えており、そのうち高齢者向

\* Received October 1, 2021

\*\* 鎮西学院大学 現代社会学部 Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

けのものが8割以上を占めている（全国社会福祉協議会2016）。

はじめにその理念を広めようとした全国社会福祉協議会（以下、「全社協」）は、この「サロン」を、「高齢者」「子育て中の親」や「子供ら」といった多世代の人が集まる「場」とイメージしていた。しかし、当時の市町村社協の多くは高齢者を対象とした事業を進めてきたこともあり、福祉にまつわる人々の間では、「サロン」といえば、「高齢者のための集まり」と認識されているとあってよいだろう。

#### 4. カフェとサロンの関係性

たとえばコミュニティカフェを「人と人がつながることを大事にする、行くとほっとできる場所づくり」と定義すると（坂倉2020）、コミュニティカフェは「サロン」や「ミニデイ」、「認知症カフェ」、「一般的な喫茶店」といったものを全て包含した概念となるはずである。ここではこれを、「サロンに類似しているモノの関係性その1」と呼び、それを図にすると図1のように示すことができる。ここで実線は区別が比較的明確なものであり、点線は区別が比較的曖昧なものを意味している。

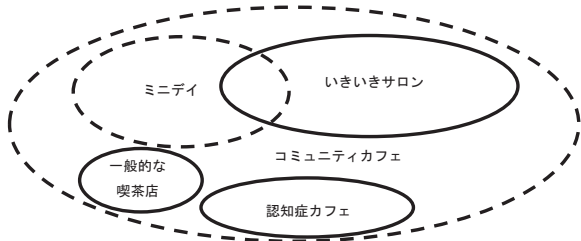


図1 いきいきサロンに類似しているものの関係性 その1 (筆者作成)

次に、コミュニティカフェを「飲食を共にすることを基本に、誰もがいつでも気軽に立ち寄り、自由に過ごすことができる場所」と定義をした場合は（倉持2014）、それに当てはまらないサロンや、ミニデイ、認知症カフェも存在するはずである。なお、一般的な喫茶店は当然ながらこの「サロンに類似しているモノの関係性その2」における「コミュニティカフェ」の概念には包含されず、別のモノとして区別されてしまう。

しかし、実際に現場では、一般的な喫茶店はもちろん、「サロン」や「ミニデイ」、「認知症カフェ」といったものもコミュニティカフェには包

含させず、それらの「どれにも当てはまらないモノ」のみが「コミュニティカフェ」と呼ばれていることが多い。それを図示したのが図3であり、これを「サロンに類似しているモノの関係性その3」とした。

ではここからは、認知症カフェの源流であり、全国で多数が開催されているサロンについて、さらに述べていきたい。

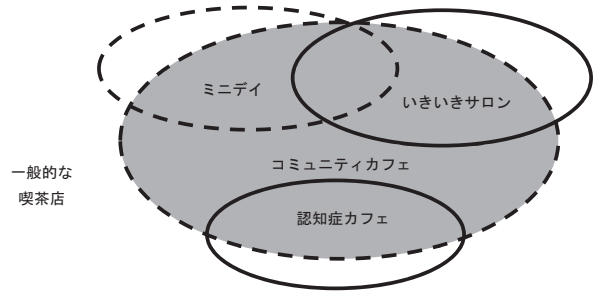


図2 いきいきサロンに類似しているものの関係性 その2 (筆者作成)

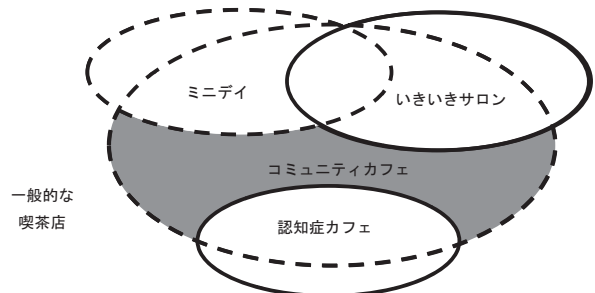


図3 いきいきサロンに類似しているものの関係性 その3 (筆者作成)

#### 5. ふれあい・いきいきサロンってこんなところ

サロンは、全社協が提唱し、各地の市町村社協が啓発・推進・支援をしてきたが、実際に運営をしているのは地区社協と呼ばれる組織だ。この地区社協とは「地区社会福祉協議会」のことで、その地域の自治会・町内会を中心に、その地域の老人クラブや民生委員協議会、母子寡婦福祉会、子ども会といった地域の団体で構成している任意の団体である。この地区社協は、法人格を持っていない場合がほとんどだ。

つまり、サロンは市町村社協が啓発・支援をして、地区社協の事業として全国に普及（拡大）させてきた経緯がある。そのため「コミュニティカフェ」や「認知症カフェ」よりも、よくも悪くもパターン化されているのが大きな特徴の1つといえる。具体的には、多くのサロンでお菓子を食

ながらお茶を飲んだり、貼り絵や折り紙で遊んだり、レクリエーションとして体操したり唄をうたう、といった過ごし方をよく目にする。それは利用者に女性が多いことは無関係ではないだろうが、本稿ではこれ以上この点の議論は控えたい。

## 6. 既存研究から得られた知見

岩永ら（2017）は、2016年6月に九州のA県B市にある全てのサロン（147箇所）を対象に調査票を用いた郵送調査を行った。彼らは3種類の調査を同時に行っており、対象はサロンの①代表者、②担い手（ボランティアなどサロンを運営している方）、③利用者、であった。調査の結果、利用者は女性が8割を上回り、年齢は後期高齢者が大半を占めていた。それは逆にいうと、後期高齢者でも十分に参加できるプログラムが運営されているとも言い換えることができる。また利用者の家族構成は、ひとり暮らしの方が事前の予想どおりに多かった（34%）が、夫婦ふたり世帯も2割以上を占め、子供と同居されている方が4割も占めていた。これらの結果から、サロンは決してひとり暮らし高齢者のためだけの「場」ではないことが分かる。

また利用者に、「サロンに参加することで人と話す機会が増えたかどうか」を質問したところ、9割近い人が「サロンに参加したら誰かと話す機会が増えた」と答えていた。それをさらに性別を分けて分析をすると、女性の方が特にサロン参加によって、人と話す機会が増えたと答えた人が、男性よりも多かった（図4）。また、サロン利用者に、「サロンが閉じこもりや孤独死防止になっていると思うか」を尋ねたところ、8割以上の人

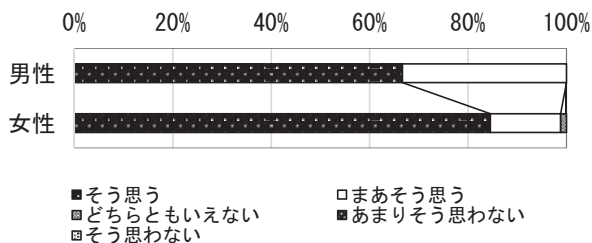


図4 性別とサロン参加者への効果 (人と話す機会の増加) のクロス集計  
出典 岩永耕ら（2017）日本地域福祉学会 第31回大会自由研究発表 「いきいきサロン参加による高齢者の変化とその要因」

また高齢者がサロンに参加することで、他者との会話が増えるため、高齢者が閉じこもりを防止していると考えられる。このことから、高齢者がサロンに参加すると「介護予防的な効果」よりもむしろ「近隣とのネットワーク構築の効果」が働くと考えられる。その要因は、介護保険事業所とは違い、サロンは住民によって運営されており、参加者宅のすぐ近所で開催されているためだと推察できる。

つまり、サロンは「利用者」も「担い手」も近隣の人が大半であるため、サロンに参加することで、高齢者の「近隣ネットワークの強化」につながる可能性が期待できる。そして、今後さらに急速に高齢化が進むわが国では、そのような近隣とのネットワーク強化機能は、ますます注目されていくだろう。

また「利用者への効果」について地域別にみると、「安否確認」・「閉じこもり・孤立防止」・「自立心向上」のいずれも、A県B市の農村地域にあるサロン利用者の方が、より多く「効果がある」と回答していた（図5）。このことから、農村地域は市街地ほど住宅が密集しておらず、民生委員・児童委員や住民同士の安否確認が市街地ほど十分ではなく、市街地よりもスーパーやバス停が遠いため高齢者が閉じこもりがちになっている可能性がある。

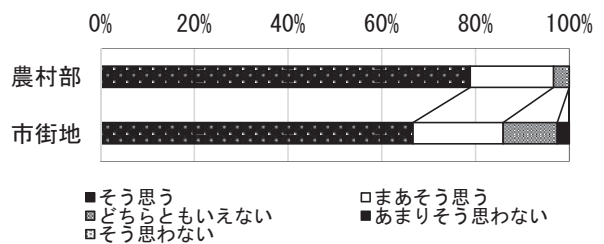


図5 地域性とサロン参加者への効果 (閉じこもり防止) のクロス集計  
出典 岩永耕ら（2017）日本地域福祉学会 第31回大会自由研究発表 「いきいきサロン参加による高齢者の変化とその要因」

## 7. むすび

「家族会」「ミニデイ（サロン）」「コミュニティサロン」の3つを源流として、認知症カフェは3つのパターンに分類することができる。さらに、それぞれをコスガ（2020）の手法を引用して「拡散」と「特化」に分けることで、6パターンに認知症カフェを分けることができる。コスガは、認知症カフェの利用者ニーズに応えるために変化をしていくカフェを「拡散型」と定義した。そして

明確な「原理・原則の保持」しているカフェを「特化型」と定義づけている。さらに、それに「アルツハイマー型認知症カフェ」を加えて、全部で7つあるパターンのどれかに基づいて認知症カフェは運営されている(図6)。このうち、ミニデイ(サロン)の中の「特化型」認知症カフェは、サロンが源流になっていると考えて差し支えないだろう。このサロンという先進事例は、認知症カフェに比べて絶対数が数段多く、その歴史も大変に長いことから、ミニデイ(サロン)のうち「特化型」認知症カフェは、サロンがこれまで運営されてきたノウハウや、上記のような利用効果を十分に理解しつつ運営していくことで、よりよい「場」となり得るのではないか。認知症カフェは、その時その時で臨機応変に変化していくカフェもあってよいし、サロンのようにある程度パターン化させて数多く普及させていくタイプもまた、あって良いはずだ。その際は臨機応変型とパターン型のどちらがよいかという議論は必要なく、多様な型の認知症カフェがあることで、利用者ひとりひとりが、それぞれ好みのカフェに出会える確率を高めてくれるはずである。

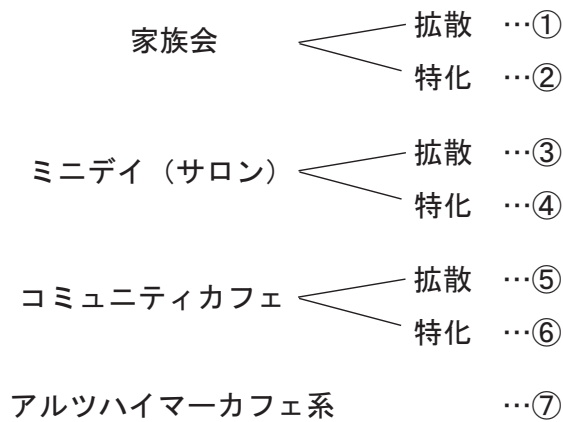


図6 認知症カフェの系統図(筆者作成)

参考文献

- 岩永耕(2017) 第65回日本社会福祉学会秋季大会口頭発表「担い手が考えるふれあい・いきいきサロンの効果や課題—サロン担い手への質問紙調査による分析から—」
- 岩永耕ら(2017) 日本地域福祉学会 第31回大会 自由研究発表「いきいきサロン参加による高齢者の変化とその要因」
- 岩永耕ら(2017) 日本社会福祉学会九州部会大会 第58回研究大会 自由研究発表「いきいき

サロンの利用状況の変化とその要因」

- 岩永耕ら(2018)「ふれあい・いきいきサロンによる効果の地域性—サロンの担い手への質問紙調査から—」長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要
- 岩永耕(2019)『「いきいき・ふれあいサロン」の効果に関する一考察—サロンの担い手への調査研究の知見から—』長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要
- 岡崎昌枝(2018)「高齢者の社会活動と介護予防」晃洋書房
- 倉持香苗(2014)「コミュニティカフェと地域社会」明石書店
- 厚生労働省「都道府県別認知症カフェの実施状況」<https://www.mhlw.go.jp/content/000699029.pdf> (2021.10.25)
- コスガ聡一(2020)「認知症カフェガイドブック」クリエイツかもがわ
- 齋藤保(2020)「コミュニティカフェ まちの居場所のつくり方、続け方」学芸出版社
- 坂倉杏介ら(2020)「コミュニティマネジメント つながりを生み出す場、プロセス、組織」中央経済社
- 社団法人長寿社会文化協会(2007)「コミュニティカフェをつくろう!」学陽書房
- 全国社会福祉協議会ら(2016)「社会福祉協議会活動実態調査等報告書2015」
- 全国社会福祉協議会(2000)『あなたもまちもいきいき! 「ふれあいいきいきサロン」のすすめ~寝たきり痴呆予防にも』